

平成 30 年度厚生労働科学研究費補助金
(障害者政策総合研究事業 (精神障害分野))
「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムのモニタリングに関する政策研究」
分担研究報告書

精神医療審査会に関する調査研究
研究分担者 臼杵 理人 国立精神・神経医療研究センター 室長

研究要旨

国や地方自治体が、精神保健医療福祉に関する様々な施策を検討していくにあたり、分かりやすく活用しやすいエビデンスを持続的に提供していくことは、施策の根幹に関わる重要な課題である。その課題の一つとして、精神医療審査会の活動状況等のモニタリングがある。本研究では、これまで複数の主体により行われてきた精神医療審査会の現況調査を、630 調査に統合していくことにより、継続的に精神医療審査会の状況を把握し、地域医療計画策定等の政策目的に活用しやすい基礎資料を作成することを目的としたものである。

我々は、精神医療審査会の現況を把握できる新しい 630 調査票を作成するため、全国精神医療審査会連絡協議会役員会、精神保健福祉センター長会からの意見聴取に加え、自治体職員へのアンケート調査を実施した。また、各自治体から寄せられた意見から論点を抽出し、その対応案について班会議で検討の上で合意を得て、新しい調査票を作成した。H30 年度 630 調査においては、検討時点で既に自治体としての集計が進んでいたため、従来の集計型の調査票を採用したが、H31 年度 630 調査においては審査のボトルネックを把握することで、自治体自身が精神医療審査会のあり方について検討することが可能なように、個票形式での調査票を採用した。なお、これらの検討を踏まえて行われた 630 調査の結果は、データクリーニングと集計を終えた後に、精神保健福祉資料として公表される予定である。

研究協力者

山之内芳雄：国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所

臼田謙太郎：国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所

古野考志：国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所

目的

厚生労働科学研究班「精神科医療提供体制の機能強化を推進する政策研究」では、精神保健医療福祉の現況モニタリング目的で作成されてきた精神保健福祉資料を、従来の630調査のみならず厚生労働省の保持するナショナルデータベースや各種自治体のデータ等から総合的に作成し、地域医療計画策定等の政策決定に資する基礎資料をより活用しやすいものとしていくことが大きなミッションとなっている。

そこで必要とされる基礎資料の一つとして、精神医療審査会の現況調査がある。精神医療審査会とは、精神障害者の人権に配慮しつつその適正な医療及び保護を確保するために、精神病院に入院している精神障害者の処遇等について専門的かつ独立的な機関として審査を行うために都道府県・政令指定市が設置するものである。審査会には、合議体委員を定めることや、合議体を適正な数で設置すること、退院等の請求審査の迅速な実施等が求められているが、これらの実態を経年的に把握することは重要な課題である。

その一方でH28年度までは、精神医療審査会関連項目についての調査として、630調査と厚生労働科学研究班による調査が混在していたため、調査内容の重複、調査の継続性、自治体の負担など、幾つかの課題が生じていた。そのため、H29年度は厚生労働科学研究班（「地域のストレンクスを活かした精神保健医療改革プロセスの明確化に関する研究（研究代表者：竹島正）」における分担研究「精神障害者の人権確保に関する研究（研究分担者：河崎建人）」）のみの調査となったが、基礎資料として経年的に利用していくことを考慮すると、630調査のように継続的に行っている調査に統合していくことが必要であるとの議論を経て、H30年度からは、厚生労働科学研究班調査を630調査の枠組みに統合する方向性が示された。

そこで本研究では、平成16年度から複数の厚生

労働科学研究班にまたがって様式を統一されないまま行われていた精神医療審査会の現況調査の内容を630調査に統合し、継続的かつ迅速に精神医療審査会の状況を把握し、地域医療計画策定等の政策目的に活用しやすい基礎資料を作成することを目的とした。

A. 研究方法

H30年度630調査において

H30年度630調査においては、それまでの厚生労働科学研究における質問項目を参考とし、従来の630調査での調査項目とも整合性を取りながら、研究班で新たな調査票を作成した。なお、H29年度630調査からは調査票の提出がエクセルのみとなったため、本調査表もエクセルにて作成した。調査票の内容については、全国精神医療審査会連絡協議会役員会、精神保健福祉センター長会に確認と意見交換を依頼し、そのフィードバックに基づいて班会議にて検討と合意形成を行った。

H31年度およびそれ以降の630調査において

より詳細な審査の実態把握のため、H31年度630調査からは個票形式で調査票を作成する方針とした。H30年度630調査と同様に、研究班にてエクセルで作成した個票調査票を、全国精神医療審査会連絡協議会役員会および全国精神保健福祉センター長会において検討を行った。その結果得られた「手法、内容について、実務者レベルでのアンケート調査を行うべきである」との提言に基づいて、H30年4月、全国自治体の実務者に対するアンケート調査を実施したところ、主に技術的な課題が指摘された。更に、自治体の意見から3つの論点が抽出されたため、班会議にてそれらの対応案について検討し、合意形成を行った。

B. 研究結果

H30年度630調査において

上記の検討の結果を踏まえて修正した集計調査票は、H30年7月にH30年度630調査として自治体に配布され、既に回収が終了している。その結果はH31年5月現在、既にデータクリーニングと集計を終え、H30年度精神保健福祉資料として公表される予定である。

調査項目

<精神医療審査会の実態>

- ・合議体の数
- ・全合議体委員の構成内訳
- ・合議体の開催数（前年度）

<精神医療審査会の退院請求の審査状況>

- ・平成29年4月から平成30年3月の1年間で退院請求を受理した件数
- ・平成29年4月から平成30年3月の1年間で退院請求の処理を完了した件数
- ・平成29年4月から平成30年3月の1年間で退院請求を受理した件数の内訳
- ・平成29年4月から平成30年3月の1年間に係る退院請求の処理完了件数の内訳
- ・請求受理から結果通知までの平均日数

H31年度およびそれ以降の630調査において

H31年度630調査においては審査のボトルネックを把握することで、自治体自身が精神医療審査会のあり方について検討することが可能なように、個票形式での調査票を採用した。

調査項目

<各申請毎に以下の項目を入力>

- ・請求種類
- ・入院形態
- ・請求形態
- ・請求者
- ・受理日
- ・意見聴取の有無
- ・意見聴取日
- ・審査日
- ・通知日
- ・不審査決定日
- ・請求に対する意見

なお、自治体から提出された意見から抽出された論点と、班会議で得られた対応案については、以下の通りである。

1) 自治体で使用している従来個票からの調査個票へのコピーアンドペーストを可能とできないか。

(対応案) エクセルの数式処理においてエラーが生じる可能性が高く、単純なコピーアンドペーストを可能とするのは現状では困難である。

2) 入院形態については、審査時の入院形態も請求に対する意見に関連する可能性があるため重要ではないか。

(対応案) 審査時の入院形態を追加していく方向性で今後の検討を進める。

3) 自治体ごとの再審査の数は重要であるため、再審査か否かを示すようにしてはどうか。

(対応案) 現時点では再審査の定義が曖昧であるため、まずその定義を明確にすることが必要である。

これらの検討結果を踏まえ、今後の630調査における精神医療審査会関連の個票調査票の検討が継続されていく予定である。

C. 考察

本研究の結果、これまで複数の主体により明確な定義無く行われてきた精神医療審査会の現況調査が統合され、継続的に蓄積される政策資料として活用できる可能性が高まったと言える。

また、自治体へのアンケート調査の結果、これまで精神医療審査会の実態については、各自治体も自治体ごとに独自フォーマットを作成して検討してきたが、自治体間での定義や書式が異なるため、単純に比較することが困難であることが判明した。たとえば、退院請求が再審査となった場合、その再審査が前審査と一連のものとして扱われるか等についても、統一された定義が存在しないことが明らかとなった。

これまで精神医療審査会の運営に際しては、医師、法曹関係者等の地域人材の差異もあり、自治体による自律的運用が重んじられてきた背景がある。しかし一方で、地域によって退院・処遇改善請求の処理速度に大きな差があることも指摘されており、人権擁護の観点からは第三者的な適正基準をもって継続的にモニタリングを行っていくことが求められている。

今後、本研究の結果に基づくエビデンスが蓄積され、自治体、医療関係者、法曹関係者、民間団体、患者、患者家族等による幅広く継続的な議論が行われることにより、地域における適切な精神保健医療福祉の実現に資する議論が可能となることが期待される。

D. 結論

H30年度630調査で行われた、精神医療審査会に関する集計調査票の結果については、H30年度精神保健福祉資料として今後公開される予定であり、重要な政策資料として活用が期待される。また、H31年

度 630 調査においては審査のボトルネックを把握することで、自治体自身が精神医療審査会のあり方について検討することが可能なように、個票形式での調査票を採用した。今後、H31 年度 630 調査後に、H31 年度精神保健福祉資料として結果が公開されると、審査会の進捗状況等を含めたより詳細な政策資料としての活用が見込まれる。

F 健康危険情報

なし

G 研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし

H 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし